

一般質問

8050問題について

今後の七尾市の取組は？

質 今、全国的に問題になっている8050問題。

障がい者は、社会と接点を持つことは簡単ではなく、いわゆるひきこもりの方もたくさんいる。

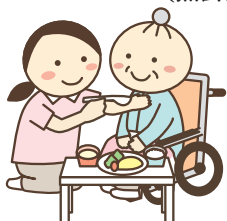
現在の七尾市の状況はどのようになっているのか。また、市として今後どういった取組を考えているのか伺う。

8050問題

80代の親が50代の子供の生活を支える状況のことで、親の収入が途絶えたり、病気や要介護状態になることなどで、生活困窮や世帯が社会から孤立する問題。



山花 剛 議員 (無党派)



答 七尾市では、身近な相談窓口である福祉課が対応している。七尾市社会福祉協議会の地域包括支援センター、生活困窮者への自立支援を行う生活サポートセンターなどでも相談を受け付けている。地域の民生委員等から気がかりな世帯の情報を収集した際は、まずは、地域包括支援センターが訪問し、その相談内容から、世帯に必要な支援を、市の関係部署や社会福祉協議会、福祉事務所等で協議し、適切なサービスにつないでいる。市としては、地道なサポートが必要と考えており、引き続き関係部署や機関が連携し、相談や支援を実施していく。

一般質問

市指定ごみ袋について



和田内 和美 議員 (無党派)



七尾市指定ごみ袋

市指定ごみ袋の価格の見直しを！

質 七尾市の指定ごみ袋は、ごみ処理費用の一部負担を市民にお願いする形で導入され、処理施設の老朽化による新しい処理施設の建設などにより処理費用が上昇し、価格改定を行い現在の価格となっているが、ごみ袋の有料化により、ごみの資源化・減少化が進捗したのか、現状を伺う。

また、神奈川県逗子市のように、ごみ袋に掲載する有料広告を募集し、その収入を財源とし、せめて近隣市町並みの価格となるよう、ごみ袋の価格見直しの検討を求めるが、市長の考えを伺う。

答 指定ごみ袋を使用し排出するステーションで回収する可燃ごみの排出量は減少し、資源ごみの資源化率は増加している。

また、ごみ袋の有料化は、平成12年にごみ処理費用の3分の1程度の負担を市民に求めることとしてはじまっており、ごみ袋の価格は、ごみ処理手数料を販売代金としていたものである。

近年の負担額は処理費用の3分の1を下回っており、価格の改定は、今後必要に応じて判断していく。有料広告の掲載は他の自治体の事例を踏まえ研究していく。

可燃ごみの排出量（※）と資源ごみの資源化率の比較

	平成20年度	令和2年度
可燃ごみ排出量	497グラム/日	472グラム/日
資源ごみの資源化率	11%	19%

※ステーション回収した可燃ごみの1人1日当たりの排出量

一般質問

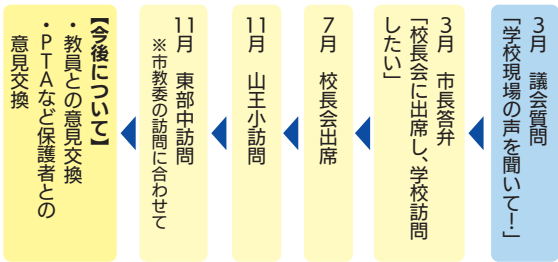
学校現場の声を聞くについて

学校現場の声を直接聞いて！

質 「市長には学校現場の声を直接聞いてほしい」と今年の3月定例会で質問をしたところ、市長からは、「校長会に出席し、その上で学校を訪問したい」といった答弁をいただいたが、その実現は難しいのではないかと推察していた。新型コロナウイルス感染症の感染者が落ち着いている今こそ実現すべきと思うがいかがか。

答 7月校長会に出席し、学校の現状と課題の報告を受けた。その後、11月10日に山王小学校6年生のSDGsの発表会で学校訪問した。11月15日には七尾市教育委員会の訪問に合わせて七尾東部中学校を訪問し、休み時間に数人の生徒と話をしたり、1人1台の端末を活用した新しい授業の様子を見ることができた。

今後は、PTAなど保護者の方々や、機会があれば教職員との意見交換も実施したい。



山添 和良 議員 (無党派)

